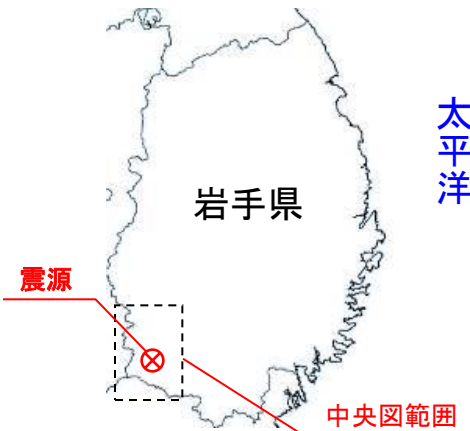


■ 概要

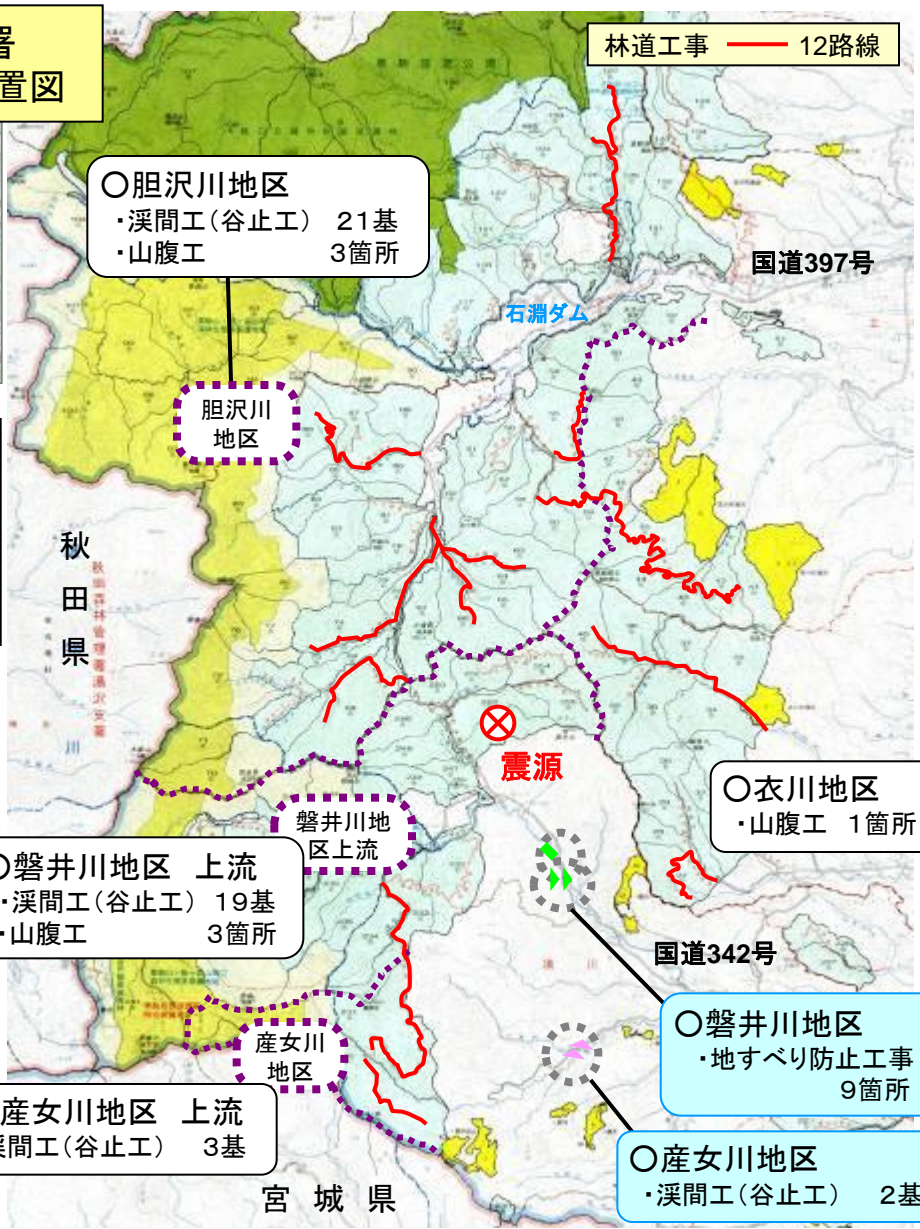
平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成27年度末までに、国有林治山事業で溪間工43基、山腹工7箇所、民有林直轄地すべり防止事業で溪間工15基、山腹工9箇所、林道災害復旧事業で12路線を整備しました。



岩手南部森林管理署 主要災害復旧箇所 位置図



岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
地震の深さ 約8km
山腹崩壊箇所 1,260箇所
(岩手県内、H20東北森林管理局調べ)



平成27年度 工事施工箇所

民有林直轄地すべり防止事業では平成27年度は山腹工を中心とした工事を施工しました。あわせて、排水トンネル工の補修工事についても引き続き進めているところです。

ニゴリ沢第一工区 [山腹工(簡易法砕吹付工)]



施工前の崩壊状況



施工後 H28.5月撮影

小股沢排水トンネル補修 [地すべり防止工事]



施工中 H28.5月撮影

- : 国有林
- : 国有林野内治山災害関連緊急事業・国有林野内直轄治山施設災害復旧事業
- : 直轄治山災害関連緊急事業・磐井川地区民有林直轄地すべり防止事業

○磐井川地区(市野々原)

地震によって市野々原地区では、磐井川の右岸で大規模な地すべり(約20ha,移動土砂360万m³)が発生し、磐井川を150mに渡って塞ぎました。地すべり土塊は対岸にぶつかって止まりましたが、地すべり地内には大量の不安定土砂や倒木等が発生しました。上流側に形成された土砂ダムが決壊するとこれらの土砂が土石流となって流下し、下流域に甚大な被害を及ぼす危険がありました。



対策工として、地すべり地内の不安定土砂を取り除き、斜面下部で押さえ盛土とし、地すべりを安定化させるとともに森林に復旧させるために緑化を行いました。



平成28年度 施工箇所

平成28年度は、国有林治山事業で平成26年度から進めている溪間工（鋼製スリット谷止工）のスリット部施工を実施します。（①）
 民有林直轄地すべり防止事業においては2件の工事を進めていく予定です。（②、③）

① 産女川治山工事 [溪間工(鋼製スリット谷止工)] 国有林治山事業

地震により発生した土石流の影響から当該溪流に大量の土石等が堆積している状況にあることから、下流域への流出を防止することを目的に平成26年度から透過型ダム建設を進めており、平成27年度も継続して実施しました。
 なお、28年度はスリット部本体の設置に着手します。



産女川治山工事
 ・溪間工1基
 （鋼製スリット谷止工）

ニゴリ沢第一工区治山工事
 ・鋼製枠護岸工

ニゴリ沢第二工区治山工事
 ・地下水排除工外

② ニゴリ沢第一工区治山工事 [鋼製枠護岸工] 民有林直轄地すべり防止事業

H27年度に山腹工（簡易吹付法枠工とカゴ枠土留）を施工した山腹斜面最下部に位置する溪流に鋼製枠の護岸工を施工します。



現況 下流より



現況 上流より

③ ニゴリ沢第二工区治山工事 [地すべり防止工] 民有林直轄地すべり防止事業

小康状態を保っていた地すべりブロックにおいて、地震発生時に滑動が確認されたことから、地下水排除として既設集水井工の追加集水ポーリングおよび水路工新設による表面水排除を実施します。



地すべりブロック内の湿地帯の状況（H27.8月撮影）
 表面水排除のための水路工を施工予定